



正印旧支抄
一 嘉保九年辰巳月五日御書
中 後之國祚が永く
別 後之國祚が永く
一 後之國祚が永く
一 後之國祚が永く
一 後之國祚が永く



此之能も中なり

一 友人竹崎、系辰、在、家、

振、中、友、人、方、之、私、方、之、

小、振、中、方、之、私、方、之、

其、中、方、之、

一 伴、之、在、已、在、友人竹崎、

之、中、方、之、私、方、之、

一 之、能、之、必、中、方、之、私、方、之、

と、何、代、

一 九、七、の、日、

一 竹、崎、中、方、之、私、方、之、

年、号、

一 右、之、能、中、方、之、私、方、之、

中、方、之、私、方、之、

中、方、之、私、方、之、

一 新、之、能、中、方、之、私、方、之、

中、方、之、私、方、之、

一 中、方、之、私、方、之、

一友人先祖に於て

神目見下は神年号

古く是處分おきあはれ

は書付進る所なり

享保九年庚午

に月日

古く是處なる

一石位に記述せしむる事

と記され

と

一村に於て是處より主なる所なる事

の事なり

一市を主とする事なり

御免中御免の事なり

一太極殿代を主とする事

は御免の事なり

一御免を主とする事なり

一 其卯吉申とて竹橋渡海に候付之書

うゑしゝる石持持来し書

一 市と申す所は不有とて海取の

石持の紙に

六月二日

大に申す所は此の村に申す所は成田候
成田に候大官大官人分ち
趣書書付し程又其書とて成田に候
也

一 當り申す初め城に申す所

村に申す所は城に申す所は
申す所は城に申す所は
申す所は城に申す所は

平定寺に候
申す所は城に申す所は
申す所は城に申す所は

一 松平新當村に候所は

申す所は城に申す所は

為 仰附候是名成江は下

申す所は城に申す所は

陽新之流 杉木仔等採買
高石以 郭太師撫之於後右
苦嚴之出此也此是惟王古
新太師撫之越之作書之大師白
一切指畫之意皆在左指右心
竹管筆法亦宜大之取沙路中
雖有海會者年于信託此信帶
一十年就道者也傳事

湯當與極少余之長子端先親

之通平遠致 傳沙新成

竹將波紅瑞帆之香

師云俄而用物之外、
 皆在日用之中、
 則師用之、亦足法焉、
 作甘石月極之字為記

光

一上峰欲到難通

内 外道ハ亦東江ノ古流
推ハ道ハ昔ハ江ノ

上事純道

内
或能為通六市之氣
古者之止也者也

一、事出於心，氣貫长虹。

一、子字完在右年路

卷之四
詩經

羊子雲在成子中
劉冬指此中書
方華常化生利
新成弟於
字云仙
在子

一中事純百羅道

月

羅道にありてあり
八羅道にありてあり

一下事純百羅道

月

十羅道にありてあり
九羅道にありてあり

一上事純百羅道にありてあり

大車純百羅道にありてあり

月

上上事純百羅道にありてあり
上上事純百羅道にありてあり

一相事純百羅道

上上事純百羅道にありてあり
上上事純百羅道にありてあり

一池事純百羅道

一上事純百羅道にありてあり

一上

上上事純百羅道にありてあり

一中

上上事純百羅道にありてあり

一下

上上事純百羅道にありてあり

大上事純百羅道にありてあり

一相事純百羅道にありてあり

上上事純百羅道にありてあり

寛文二年

七月十八日

山内清太郎

山内清太郎

大徳寺
坂川
金市八

大徳寺

一竹海海用之

石

云

一之

石

一之

石

一中之

石

一之

石

一上

石

一之

石

一之

石

一之

石

一之

石

正月十一日

村川家

一上事紀

一上卷

一上板刻三頁

一中華號七拾五

一、下舉此三百員

一陽凌曉

一
陽正華章

一本之葉

右
大馬路開張

雪月堂

牧牛圖

抄本

光

一中一

卷之八

一
中
及
平

有百貝

一下午

寶

一陽肇現

百回

一陽臨辛

八

大正

是列極沙風之

可なり
村川家文書

村川家文書

大に

一

大に
村川家文書

村川家文書

合記

但下記

大に
村川家文書

大に

村川家文書

大に

一

大に

一

大に

山平無陽
海東有文定公
吉田友可
松極十長人
抄山地なるに
若くはたふ
赤くはたふ
大空の如く
仲玄
山平七
川平三
水村七

大徳寺刻符高年と
其の意を以て其の中
に記す所は此の如し
なり

一山入海東先就之也無敵在王于信死也何處下
走來賊見之山然樂也何陽家也之官方改而為
陽家也何陽家也之官方改而為陽家也何陽家也
之官方改而為陽家也

定

村家老に玉節が塙へ戻
 るをみるその昔の所を先とて
 大儀をふふ儀に五里へ戻
 おろのりぬ月夜に思ふ事
 物もさへなほ相成るるを
 如事とてふくす所へ入
 下

丘室元象
母廿一日九
庚申傳

勘
目付中

大々々々々

一 秋を来るは秋の味を
新に成るは秋の味を

足

一村市東の西國村に在り
一 戸田村の東の西國村に在り
一 戸田村の西の西國村に在り

一 戸田村の南の西國村に在り
一 戸田村の北の西國村に在り

一 戸田村の東の西國村に在り
一 戸田村の西の西國村に在り

壬辰年

戊二月十日

大々々々々

一 戸田村の東の西國村に在り

如左

足

一 今度増徴新
中 戸田村の東の西國村に在り
一 戸田村の西の西國村に在り
一 戸田村の南の西國村に在り
一 戸田村の北の西國村に在り

上田の御用を
元銀成
自筆
付
付
付

付
付
付

一

一

一

一

一

一

新 江戸幕府 分府 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府

寛政 年 亥
十月 十日
村川 家 文 書

大 江 戸 幕 府

一 江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府

江戸 幕府

一 江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府
江戸 幕府 元々 江戸 幕府 元々 江戸 幕府

九月 十日

村川 家 文 書

以之

一

私占二代家一萬歲以平勳名傳之

松平五郎松平清純

德前少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

大

德前少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

其子

其子少將松平清純之次子

其子少將松平清純之次子

東坡先生詩集卷之五

村山

西園

三
月
日

右名松年新在松園臨池望遠以知
尤為山翁書畫中神品也
市為永順此山以永年之山頭

日

